

銀賞

点検で異常を感じる

愛知製鋼株式会社

有村 航紀

私は職場へ配属され2年目の保全マンです。私が配属されたユーティリティ保全係はエアー、冷却水、蒸気などのユーティリティを供給する設備の保全を行っています。私はその中でも、電気炉の排ガスを利用して蒸気を作る電気炉排熱ボイラーの電気・計装の保全を日々実施しています。

配属され、すぐに排熱ボイラーの点検を上司と二人で回り始めました。点検を回る際、最初に教わったことは「設備の異常傾向に気づき故障させないようにする」という点検の目的についてでした。排熱ボイラーはライン直結の設備でトラブルが発生すると生産ラインへ影響が出てしまいます。また稼働し始めたばかりの初期故障期のため、点検を実施して異常を見つけ、故障を未然に防止する必要があると教わりました。それからは毎日上司と点検へ行き、設備の構造や正常な状態について必死で覚える日々が続きました。

3ヵ月月過ぎたころ、上司から「次回からは一人で回ってもらおう」と言われ不安もありましたが、それ以上に仕事を任されることへのうれしさの方が多くありました。一人で回り始めてからは、上司と点検表を見て1つひとつ異常がないことを確認していました。半年ほど経つと、自分で点検の結果を報告できるようになり、しっかり点検が回れていることに自信がついてきました。

点検を回り始めて1年経過し、設備への知識も増えてきた頃、異常がないのに毎日点検に行くことに疑問をもつようになりました。そんなとき、上司から「最近排ガスの温度が低くないか？」と言われました。電気炉の排ガスの温度は生産状態で大きく変動するもので、記録した排ガスの温度も管理基準内の値だったため「気のせいじゃないか？」と思っていました。しかし、点検表を見直してみると何日も前から排ガス温度が低い状態でした。結果、温度変化がなく、異常であることがわかりました。確認のため温度センサーを外すと、一部が破損した状態でした。この温度センサーは排熱ボイラー自体を保護する役割があり、故障してしまうと排熱ボイラーを保護できず、破損してしまいます。幸いにも今回は一部の破損のみで影響はありませんでしたが、温度センサーの交換が必要になりました。その後、上司からは「点検の目的は異常傾向に気づ

くこと、その日の数値を記録するだけではだめだ」と言われ、点検の目的を正しく理解できていなかったことに気づきました。自分がやっていたことは設備の異常傾向に気づき、故障を防ぐための点検ではなく、設備の状態を確認し、記録しているだけだったのだと痛感しました。それからは点検の目的を常に意識し、設備の外観・異音など、五感での点検はもちろん、点検表に記入する数値などから傾向を見て異常に気づけるように1つひとつ確認しながら点検を回るようになりました。それにより、点検中に設備の異常傾向に気づき、上司へ報告できるようになりました。毎日設備の状態を確認し変化点・異常傾向を早く見つける、これが点検を毎日回ることの意味だと改めて気づくことができました。

保全作業の中で点検は設備の異常に気づくために不可欠な作業であり、故障を防止するための第一歩です。今回の失敗を忘れず、故障を発生させないために、これからも点検を実施し設備の異常傾向に早く気づけるようにします。そして、点検で見つけた異常を自分で補修できるよう、設備の知識や技術・技能を向上させ、故障を発生させない保全マンになれるよう日々精進していきます。